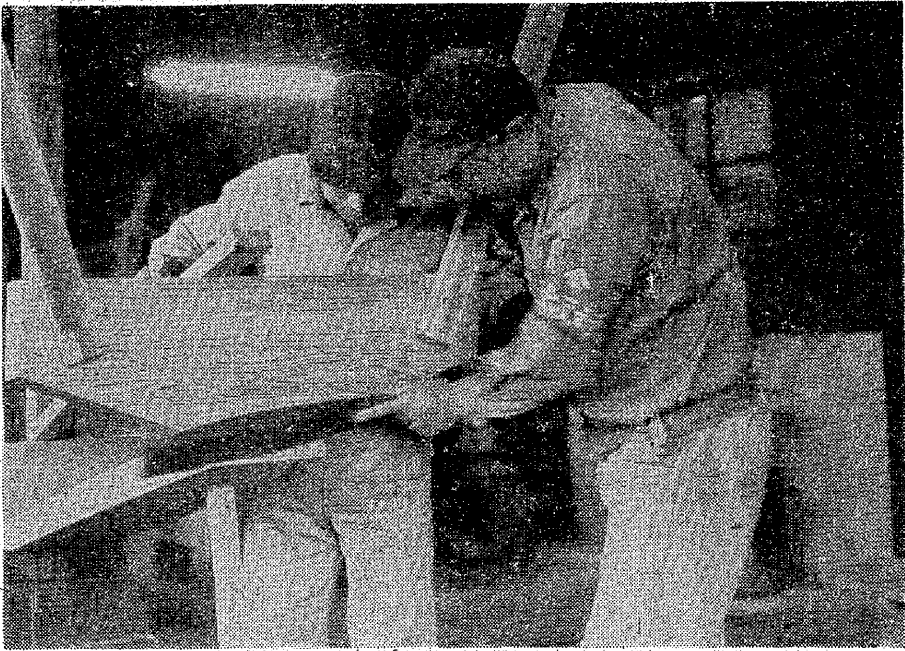




発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ⑧3033番
⑧3034番
編集兼
発行人 山下 開
半年間1,200円 送料共



写真の右は、取材に向かった筆者に、給料明細書をとり出して見せながら、「これが今度のはじめてもらった私の月給です。これまでの日給より1万円以上も下回りました。調整給でこまかしているが、会社はこんな給与はいつでもとりますよ。簡単です」と手をうちふつて語った丸田さん。左は、仲間といつしよに、船大工中の丸田さん。しだいに船の型ができあがっていく。その丸田さんにこの仕打ち。ひどい会社があつたもんだ。



変らぬ生産第一主義

配分 会社、また自案強行

三池労働組合・年末闘争妥結の配分をめぐる会社と交渉してき後、獲得した期末手当の生活本位「たごころ」の二十四日(港務所

は二十五日)にいたって、ついに会社は組合の主張を踏みにじり、またもその主張通り、労働者を「生産第一主義」の重労働に狩り立てるための配分を押しつけてきた。詳細はエラを参照していただきたい。

を休んだり、お酒にうつつをまはしたり、「H.E.C.」会社側の見方がどうもさげすまれている。これは仕事の方もどうもさげすまれている。公然と放つ人さえ見られたのだ。ただ「一部の者だけ、ほんのさげすみ程度」に過ぎない。その他多くをこま切れに切り刻んでこの差別扱い。

新労の人は、それで……

よう腹かかんですね

化学労働者があきれられる月給制

三池港務所の会社は、三池労働組合の強い反対を押し切つて、ききに、月給制(正式には、一般職社員の新給与制度)を強行。それが十一月十五日支給(十月分稼ぎ)の月給となつて、具体的な形をとり各人に支給された。ところがどうも、その低半分を調整給で補わなければならないほど、過半数の人がこれまで受給してきた賃金を下まわる。さうで、まして「インフレ」の事実がある。

丸田さんの例

三池港務指導部の丸田勇さんは、港務所の木工師。年令五十二歳。勤続二十九年余り。扶養家族が二人(家族は四人)。日常の具体的な仕事としては、船大工を主として、そのほか修理修繕。

月給といへば、三井東洋化学ではすでに早くから実施されている。そこで、その実態を調べ、丸田さんの分とつき合わせて見るとどうなるか。

三池労働組合の主張を踏みにじり、またもその主張通り、労働者を「生産第一主義」の重労働に狩り立てるための配分を押しつけてきた。詳細はエラを参照していただきたい。

勤続二十九年といへば、決して短い年月ではない。それなのに、五日に、生れてはじめて、月給、と名のつく賃金をもらつて見てびっくり。わずかでも、十三万四千四百四十円。それも、これまで受給していた賃金よりさうした分を補った、例の調整給という奴の一万八千五百八十八円を入れてのことである。

ある日休む時間に職場にたずねると、「見てくれんの。これが港務所での新給与制度だ。私の月給です」と、給料明細書をつまみ出した。

三池労働組合の主張を踏みにじり、またもその主張通り、労働者を「生産第一主義」の重労働に狩り立てるための配分を押しつけてきた。詳細はエラを参照していただきたい。

生産意欲踏みにじる港務所の月給制

解説

港務所の月給制は、結果はさうさうと現われ、新給与の間には「生産意欲を踏みにじる」といふことが、さういふことである。

三池労働組合の主張を踏みにじり、またもその主張通り、労働者を「生産第一主義」の重労働に狩り立てるための配分を押しつけてきた。詳細はエラを参照していただきたい。

SEEC

ヨーロッパ共同体。欧州統合をめぐりヨーロッパ経済共同体、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体、ヨーロッパ原子力共同体を総称する。六七年七月に三共同単一の閣僚理事会(決定機関)と委員会(執行委員会)が発足した。

【連合】



裁判は一回きりです。三審制は三回です。

裁判の三審制

第一審の裁判に不服を第二審に持ちこたうことを「控訴」といいます。その順序は、(1)簡易裁判所、(2)地方裁判所、(3)高等裁判所、(4)最高裁判所、(5)大法院です。